

要旨

エウサビア ドウア マガ、マリア、2013、ブラウイジャヤ大学の2009年入学の日本語学科の学生における助動詞「らしい」「ようだ」「そうだ」についての理解能力。ブラウイジャヤ大学日本文学科。

指導教官: (1) ナデイアインダジャルタンテイ (2) フェビタリアエサラギ

キーワード: 助動詞、能力

日本語には色々な種類の助動詞がある。いくつかの助動詞はインドネシア語で同じ意味を持っているのがある。その助動詞は、「らしい」「ようだ」「そうだ」である。この助動詞は、学生の日本語の勉強のプロセスにいつも現れる。同じ意味を持っているから、学生にとつては使用法が大変難しく感じられる。そのため、筆者は、ブラウイジャヤ大学の2009年入学の日本語学科の学生における助動詞「らしい」「ようだ」「そうだ」についての理解能力を研究することにした。本研究では、筆者が二つの問題に答えようとする。その問題は(1)日本語学科の学生の「らしい」「ようだ」「そうだ」を理解する能力はどうか(2)「らしい」「ようだ」「そうだ」の機能の違いを理解するのにどのような難しいことがあるか。

本研究は記述的で定量的で、テストを使って行う。データは有効性と信頼性の計算を満たしたデータである。データ分析はデータを表に入れ、表に基づいて結果を説明する。

結果として、全ての回答者からの952のデータの中で、正しかった答えは494のデータだった。「らしい」「ようだ」「そうだ」の使用法は、「そうだ」は伝聞と推量の機能でよく使われて、「ようだ」は伝聞と比況の機能でよく使われて、「らしい」は比喩の機能でよく使われてということがわかった。また、「らしい」「ようだ」「そうだ」があまり理解できなかったのは比況、伝聞と推量、伝聞、比喩の機能である。

日本文学科は学生に「らしい」「ようだ」「そうだ」の使い方の違いについての知識を与えたほうがいい。特に日常的、間接と直接のコミュニケーションによく使われている。次の研究として、他の助動詞の使用法の分析や助動詞の誤用分析といった研究をすることができる。